

米軍基地環境カルテ

キャンプ・ヘーゲ（施設番号：FAC6033）

平成 29 年 3 月

沖 縄 県

目 次

31. キャンプ・ヘーグ（施設番号：FAC6033）	31-1
31.1 基本情報	31-1
31.1.1 名称	31-1
31.1.2 所在地、広さ（施設面積）	31-1
31.1.3 施設の概要等	31-1
31.1.4 施設の管理及び用途	31-1
31.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況	31-2
31.1.6 土地利用規制図	31-2
31.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報	31-2
31.2.1 基地等の土地の状況	31-2
31.2.1.1 地形分類図	31-2
31.2.1.2 表層地質図	31-2
31.2.1.3 土壤図	31-2
31.2.1.4 切盛土分布図	31-2
31.2.2 基地内の施設の使用状況	31-3
31.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）	31-3
31.2.2.2 施設等使用履歴	31-3
31.3 基地等の環境状況	31-4
31.3.1 自然環境（植物）	31-4
31.3.1.1 現存植生図	31-4
31.3.1.2 植生自然度図	31-4
31.3.1.3 特定植物群落	31-4
31.3.1.4 重要な種、貴重な種等	31-5
31.3.2 自然環境（動物）	31-5
31.3.2.1 重要な種、貴重な種等	31-5
31.3.3 水利用状況	31-5
31.3.3.1 水利用状況	31-5
31.3.3.2 井戸・湧水の分布状況	31-6
31.3.3.3 河川及びダムの分布状況	31-7
31.3.4 地下水の状況	31-8
31.3.4.1 地下水基盤面等高線図	31-8
31.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等	31-8
31.4.1 事故等の概要	31-8
31.4.2 事故等発生場所	31-8
31.5 環境調査を実施する場合の留意事項	31-8
31.6 その他情報	31-8

31.7 環境等に関する通常監視について	31-9
----------------------------	------

31. キャンプ・ヘーグ（施設番号：FAC6033）

31.1 基本情報

31.1.1 名称

キャンプ・ヘーグ（施設番号：FAC6033）

31.1.2 所在地、広さ（施設面積）

<昭和 47 年 5 月 15 日>

所在地：美里村字地花、字登川、具志川市字赤道

広さ：約 645,100 m²

出典：外務省ホームページ「沖縄の施設・区域（5・15 メモ等）（仮訳）」（1972 年 5 月）

（http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/sfa/kyoutei/pdfs/02_03.pdf）を参照



図 31-1 キャンプ・ヘーグの位置図（昭和 47 年時）

31.1.3 施設の概要等

昭和 52 年 5 月 14 日、一部区域を除き全部返還（一部区域は、同年 12 月 15 日、陸軍貯油施設及びキャンプ瑞慶覧に統合された）。

31.1.4 施設の管理及び用途

昭和 52 年 5 月 14 日、一部区域を除き全部返還（一部区域は、同年 12 月 15 日、陸軍貯油施設及びキャンプ瑞慶覧に統合された）。

31.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況

返還跡地は登川地区土地区画整理事業が実施され、住宅用地、福祉施設、企業用地として利用されている。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成25年3月、沖縄県知事公室基地対策課）より引用

31.1.6 土地利用規制図

キャンプ・ヘーグ跡地及び周辺の土地利用規制図を図面集「土地利用規制図C」に示す。

31.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報

31.2.1 基地等の土地の状況

31.2.1.1 地形分類図

キャンプ・ヘーグ跡地及び周辺の地形分類図を図面集「地形分類図C」に示す。

31.2.1.2 表層地質図

キャンプ・ヘーグ跡地及び周辺の表層地質図を図面集「表層地質図C」に示す。

31.2.1.3 土壌図

キャンプ・ヘーグ跡地及び周辺の土壤図を図面集「土壤図C」に示す。

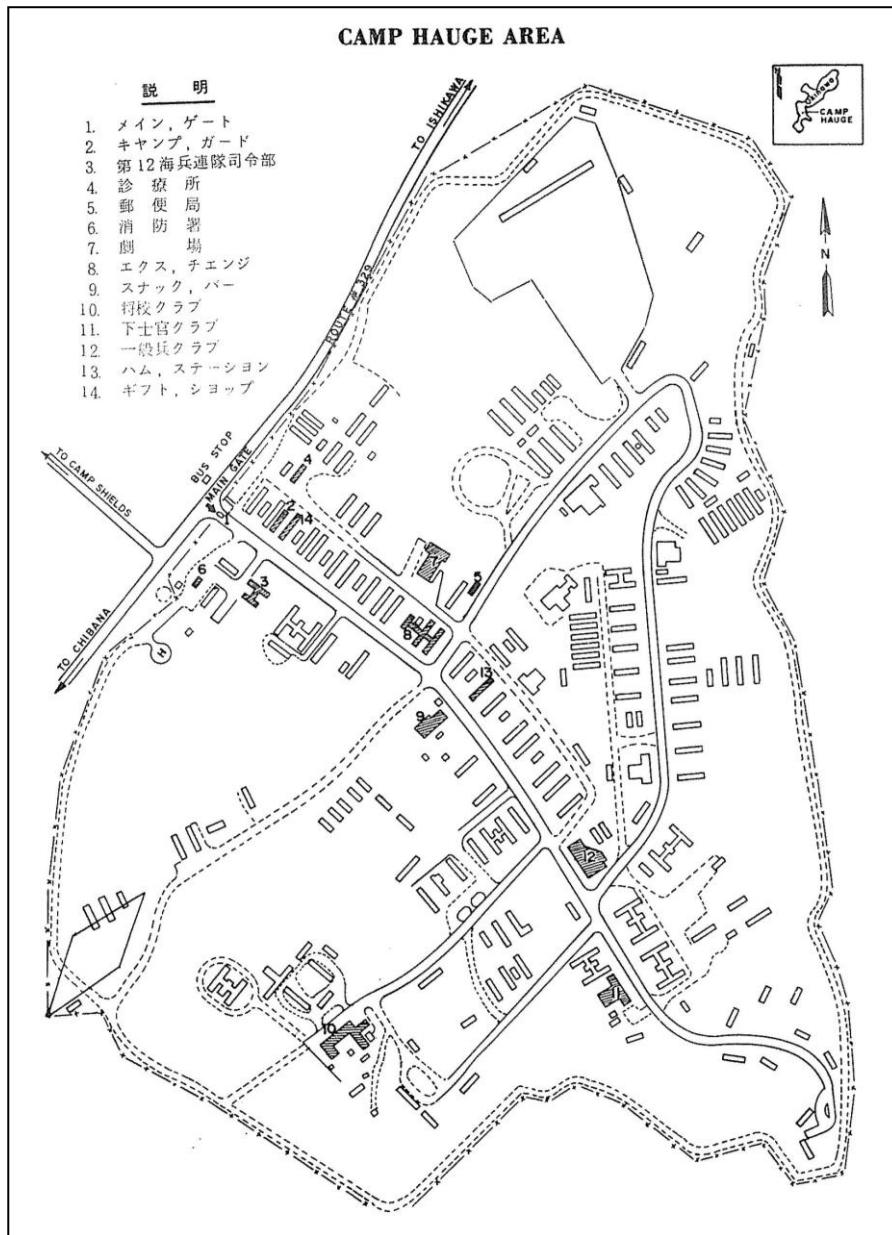
31.2.1.4 切盛土分布図

キャンプ・ヘーグ跡地の切盛土分布図は作成されていない。

31.2.2 基地内の施設の使用状況

31.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）

「沖縄の米軍基地」で確認したキャンプ・ヘーグの施設配置図を図 31-2 に示す。



出典：「沖縄の米軍基地」（昭和 50 年 2 月、沖縄県渉外部基地渉外課）より引用

図 31-2 キャンプ・ヘーグの施設配置図

31.2.2.2 施設等使用履歴

昭和 20 年

軍事占領の継続として使用される。

年月日不明

第 3 海兵師団や第 12 海兵連隊が常駐し、補給、通信、医療、輸送、修理等の各部門が集中する米海兵隊の中枢基地として機能していた。

昭和 47 年 5 月 15 日

「キャンプ・ヘーグ」として提供開始（使用主目的：宿舎、事務所及び訓練場）。

昭和 52 年 5 月 14 日 全部返還。

出典：「沖縄の米軍基地関係資料」（昭和 47 年 11 月、沖縄県総務部涉外課）、
「沖縄の米軍基地」（平成 50 年 2 月、沖縄県渉外部基地渉外課）、
「返還軍用地の施設別概要」（昭和 53 年 3 月、沖縄県企画調整部軍用地転用対策室）
「沖縄の米軍基地」（平成 25 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

<主要建物及び工作物>

建 物：事務所、兵舎、工場、倉庫等

工作物：コンクリート壁、フェンス、上下水道、照明装置、通信施設、貯水庫、無線電信
柱等

出典：「返還軍用地の施設別概要」（昭和 53 年 3 月、沖縄県企画調整部軍用地転用対策室）より引用

31.3 基地等の環境状況

31.3.1 自然環境（植物）

31.3.1.1 現存植生図

キャンプ・ヘーゲ跡地及び周辺の現存植生図を図面集「現存植生図 C」に示す。

31.3.1.2 植生自然度図

キャンプ・ヘーゲ跡地及び周辺の植生自然度図を図面集「植生自然度図 C」に示す。

31.3.1.3 特定植物群落

キャンプ・ヘーゲ跡地及び周辺の特定植物群落を表 31-1 に示す。キャンプ・ヘーゲ跡地及び周辺の特定植物群落として「知花城趾の植生」がある。

表 31-1 キャンプ・ヘーゲ跡地及び周辺の特定植物群落

No.	名称	選定基準	相観区分	備考
1	知花城趾の植生	E, H	亜熱帯常緑広葉高木林	

◆ 特定植物群落の選定基準は以下のとおり。

- A : 原生林もしくはそれに近い自然林
- B : 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群
- C : 比較的普通にみられるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる山地にみられる植物群落または個体群
- D : 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
- E : 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
- F : 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
- G : 亂獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
- H : その他学術上重要な植物群落または個体群

出典：「自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（平成 12 年 3 月、環境庁自然保護局生物多様性センター）を参照

31.3.1.4 重要な種、貴重な種等

キャンプ・ヘーグ跡地のあるうるま市及び沖縄市のうち、沖縄市で確認された重要な種、貴重な種等（植物）は74種類ある。

出典：「沖縄市史 第四巻 自然・地理・考古編－自然編－」（2007、沖縄市総務部総務課）を参照

31.3.2 自然環境（動物）

31.3.2.1 重要な種、貴重な種等

キャンプ・ヘーグ跡地のあるうるま市及び沖縄市のうち、うるま市で生息が確認された又は生息が可能或いは推定される、重要な種、貴重な種等（動物）は46種類、沖縄市で生息が確認された重要な種、貴重な種等（動物）は102種類いる。

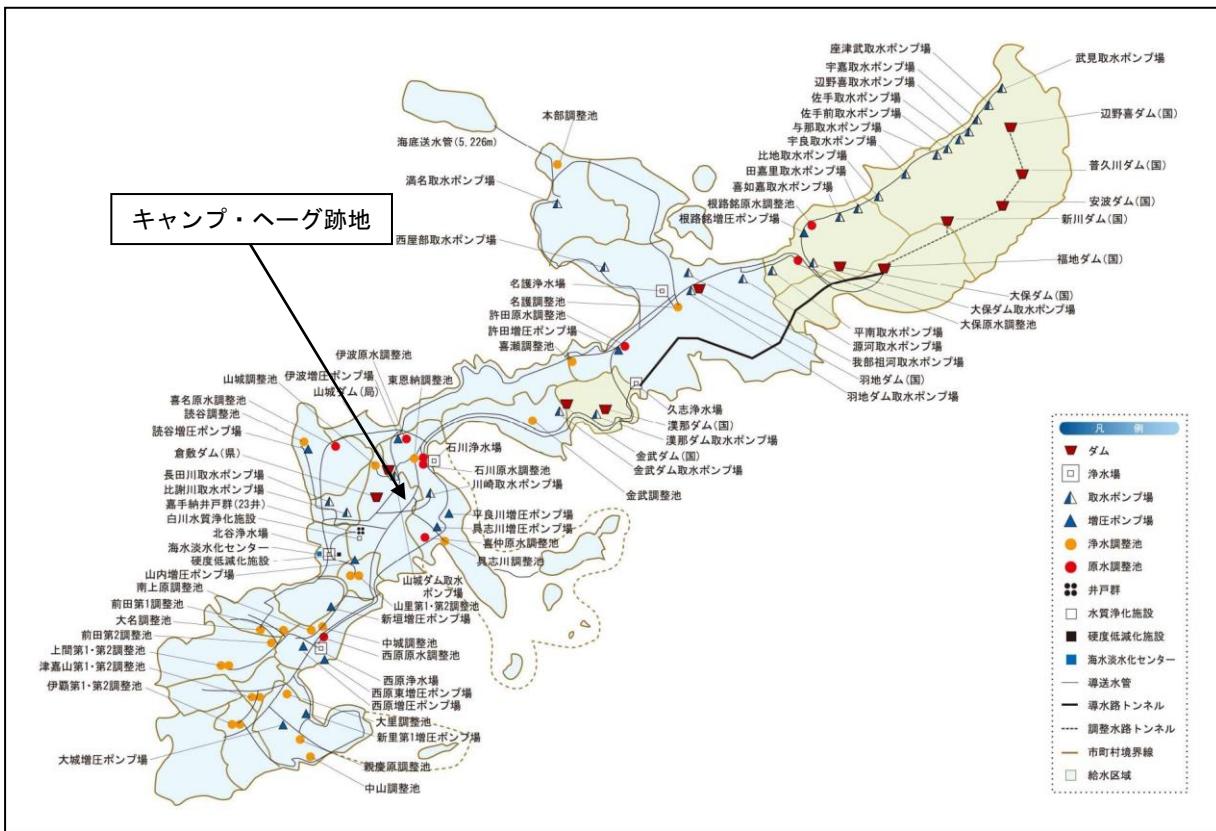
出典：「自然環境の保全に関する指針【沖縄島編】」（平成10年2月、沖縄県環境保健部自然保護課）、

「沖縄市史 第四巻 自然・地理・考古編－自然編－」（2007、沖縄市総務部総務課）を参照

31.3.3 水利用状況

31.3.3.1 水利用状況

沖縄県企業局による、沖縄島及び周辺の水利用状況を図31-3に示す。

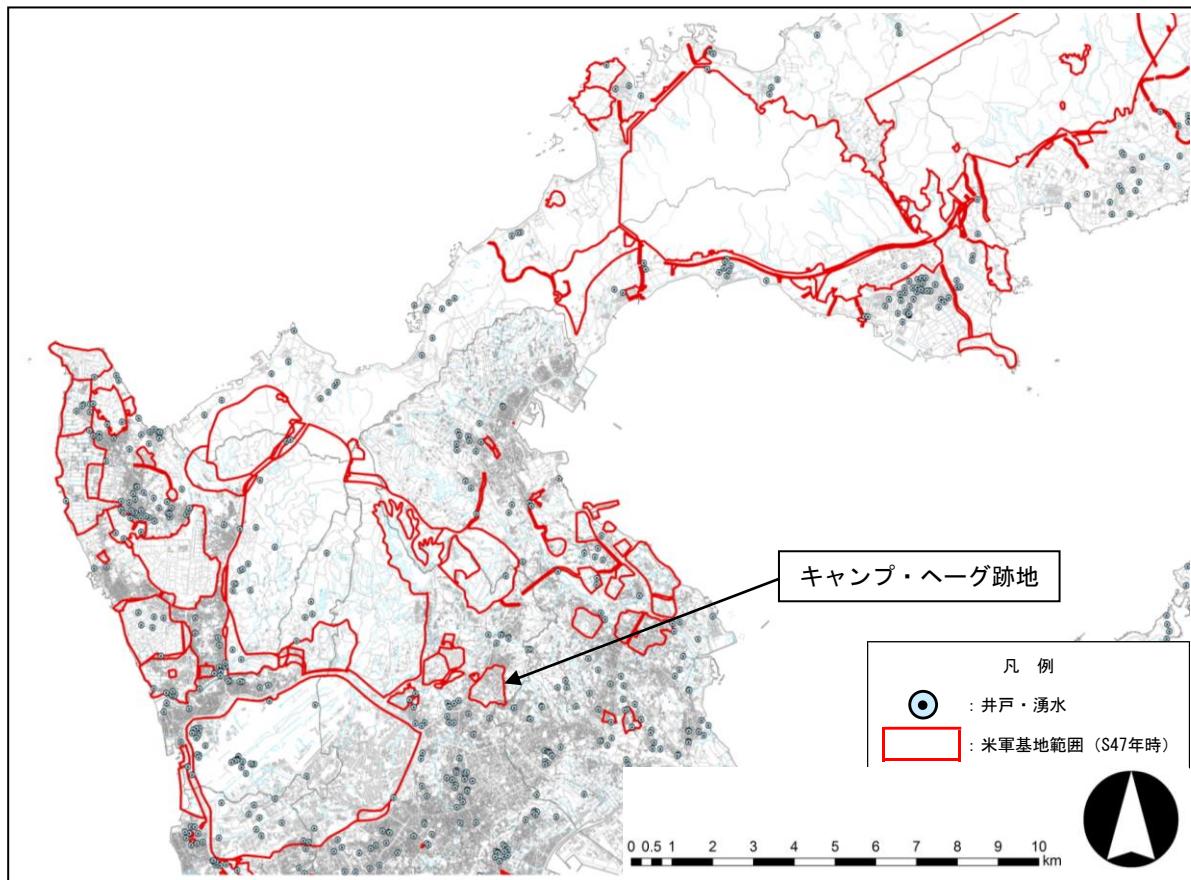


出典：「2015<平成26年度決算版> 環境報告書」（平成28年3月、沖縄県企業局配水管理課）を参照

図 31-3 沖縄島及び周辺の水利用状況

31.3.3.2 井戸・湧水の分布状況

キャンプ・ヘーグ跡地及び周辺の井戸・湧水分布状況を図 31-4 に示す。



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。（承認番号 平成 29 情使、 第 269 号）」
注：本図には、史書等より情報を得た井戸・湧水の位置も示されていることから、その存在や状態については、

活用者が確認する必要がある。

出典：別途記載

図 31-4 キャンプ・ヘーグ跡地及び周辺の井戸・湧水分布状況

31.3.3.3 河川及びダムの分布状況

キャンプ・ヘーゲ跡地及び周辺の河川、ダム分布状況及びその概要を図 31-5、表 31-2 に示す。キャンプ・ヘーゲ跡地及び周辺には、二級河川及び準用河川がそれぞれ 1 本ある。なお、周辺に国・県管理ダムはない。



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平成 29 情複、 第 301 号）」

出典：「国土地理院地図（平成29年3月）」、「国土数値情報のデータ（河川情報）」、

「沖縄の米軍基地関係資料（地位協定に基づく提供施設）」（昭和47年11月、沖縄県総務部）、

「返還軍用地の施設別概要」（昭和53年3月、沖縄県企画調整部）を参照

図 31-5 キャンプ・ヘーゲ跡地及び周辺の河川、ダム分布状況

表 31-2 キャンプ・ヘーゲ跡地及び周辺の二級河川、準用河川の概要

<二級河川>

比謝川水系 比謝川	指定延長 : 15,932m	流域面積 : 49.66km ²
指定区間 : (左岸) 沖縄市字胡屋 5 丁目 355 番 3 から海に至る (右岸) 沖縄市字胡屋 5 丁目 355 番 3 から海に至る		

<準用河川>

天願川水系 川崎川	指定延長 : 1,140m	流域面積 : 12.26km ²
指定区間 : (左岸) うるま市字兼箇段 1897 番地～沖縄市登川中川原 1175 (右岸) うるま市字兼箇段 1895 番地～沖縄市登川中川原 141		

出典：沖縄県ホームページ「沖縄の河川資料室」

(<http://www.pref.okinawa.jp/site/doboku/kasen/kanri/okinawanokasensiryousitu.html> (平成 28 年 8 月 23 日閲覧) を参照

31.3.4 地下水の状況

31.3.4.1 地下水基盤面等高線図

キャンプ・ヘーグ跡地及び周辺の地下水基盤面等高線図を図面集「地下水基盤面等高線図C」に示す。

31.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等

31.4.1 事故等の概要

キャンプ・ヘーグ及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等の情報は、「沖縄の米軍基地」（沖縄県）、「環境白書」（沖縄県）では確認できなかった。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成15年3月、沖縄県基地対策室）、

「沖縄の米軍基地」（平成20年3月、沖縄県知事公室基地対策課）、

「沖縄の米軍基地」（平成25年3月、沖縄県知事公室基地対策課）、

「環境白書【平成24年度報告】」（2014、沖縄県環境部環境政策課）、

「環境白書【平成25年度報告】」（2015、沖縄県環境部環境政策課）、

「環境白書【平成26年度報告】」（2016、沖縄県環境部環境政策課）を参照

31.4.2 事故等発生場所

キャンプ・ヘーグ及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等発生場所の情報は確認できなかった。

31.5 環境調査を実施する場合の留意事項

特になし。

31.6 その他情報

沖縄県が、米国立公文書記録管理局（National Archives and Records Administration, NARA）（以下、「NARA」と言う。）で収集した在日米軍関係資料のうち、キャンプ・ヘーグ及び周辺に関する環境関連情報の概要を表31-3に示す。

キャンプ・ヘーグ及び周辺については、以下の資料が確認された。

表 31-3 キャンプ・ヘーグ及び周辺に関する環境関連情報の概要（NARA収蔵）

年月日	場所	資料の種類	概要
1970年 7月 12月	—	文書	海兵隊に関する雑誌。キャンプ・シュワブを含むいくつかの基地の空中写真が掲載されている。
1972年 1974年 7月	各種施設	写真	基地内の状況、施設の写真。第2弾薬供給地点の下士官兵の兵舎、第12海兵連隊の宿泊施設、第12海兵司令部ビル、第12海兵連隊司令部。
1972年	—	写真	キャンプ・ヘーグの空中写真。

31.7 環境等に関する通常監視について

キャンプ・ヘーグ及び周辺において、沖縄県による環境等に関する通常監視は行われていなかった。

出典：「昭和 51 年度版 環境白書」（1977、沖縄県）、
「昭和 53～平成 16 年版 環境白書（昭和 52～平成 15 年度年次報告）」（1978～2005、沖縄県）、
「環境白書【平成 16～26 年度報告】」（2006～2016、沖縄県）を参照

